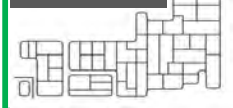


1 社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

青森県
おいらせ町



平成20年より本格的に農業生産と6次産業化に着手。「誰もが地元で安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指して取り組み、現在では年間40万人以上が訪れる県内有数の観光スポットとして、また障害者・高齢者の活躍の場として、更には地域の交流拠点として活躍。

基本情報

- 所在地：青森県おいらせ町
- 団体名：社会福祉法人誠友会
工房あぐりの里
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：
 - ・平成22年度 意欲溢れる攻めの農林水産業賞 優秀賞（主催：青森県）
 - ・平成27年度 農林水産大臣賞 交流促進部門（主催：（一財）都市農山漁村交流活性化機構）
 - ・令和2年度 ディスカバー農山漁村の宝「コミュニティ部門」（主催：内閣官房、農林水産省）
- 主力商品：小麦(もち姫)、菊芋、イチゴ、南国フルーツ等

取組の概要

- 工房あぐりの里では、障害者の就労する場として、新鮮な野菜や南国フルーツなどが栽培できる大規模なハウスや直売所、加工施設、レストラン、圃場等が整備されており、土づくりから苗の植え付け、収穫作業、調理補助や加工作業、動物の世話など職種は多岐にわたっている。
- 一人一人が抱える症状にあわせて仕事内容を調整するなど、自らの能力とペースで仕事をこなし、達成感ややりがいを得ながら働いて頂けるよう、農業を含めた様々な職種の従事者が障害者と共に働き、支援・連携しながら作業を行っている。



（熱帯ハウスのバナナ栽培）



（バリアフリーのイチゴ高設栽培）



（野菜加工施設）



（もち小麦畑の見学会）

体制図

【観光農園アグリの里おいらせ】

・株式会社アグリの里
おいらせ(農業法人)
・工房あぐりの里(福祉
サービス事業所)
・NPO法人平成謝恩会
(地域貢献)



ふるさとの味研究会
(高齢農業者団体)
地元農業者
地元公立高校

農作業委託・加工品の共同開発他

取組の成果

- 平均工賃（B型）が取組当初(平成22年)の16千円に比べ、令和2年度は25千円と9千円以上向上した。
- 収穫された小麦の取扱店舗は21店、関連商品も40種以上が商品開発・販売されるようになった。
- 商品開発については、「ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物」など全9種類の新商品を開発。

所在地 ▶ 青森県上北郡おいらせ町向山東2丁目2-1684

連絡先 ▶ TEL：0178-20-0670 FAX：0178-20-0660

E-mail：seiyuu18@kizakinou.jp

ウェブサイト ▶ info@agurinosato.jp

【取組のプロセス】

「観光農園アグリのおいらせ」を開設して、認定農業者を取得

2007年
4月～

きっかけ

「地域における障害者の活躍の場・雇用の場」を実現したいとの思いから、2008年より本格的に農業生産と6次産業化に着手。

2008年
4月～

「アグリのおいらせ作業所を設立＜2008年4月＞
就労継続支援A型事業所_工房あぐりの里を開設＜2009年8月＞
就労継続支援B型事業所を開始＜2010年9月＞



（もち小麦加工品の体験会）

2013年～

「もち小麦普及委員会」を設立

- 休耕地の活用と農福連携による地域の取組みとして、もち性小麦(もち姫)の栽培に取り組む。
- 地元の生産者だけでなく、県民局、地元行政、野菜研究所、県立保健大学、福祉施設、加工業者等多くの方々との多様な連携を図りながら地域の取組みとして展開。
- 収穫された小麦は、地元を中心に普及を図り取扱店舗は21店舗、関連商品も40種以上が商品開発・販売されるようになり、食材としても学校給食や福祉施設などで採用されるなど、地元地域の食材として定着。



（完成した野菜加工施設）

(2014年)三重県障がい者就農促進協議会と人的交流

2020年～

「ふるさとの味研究会」との連携

- 町内で直売所を運営している、ふるさとの味研究会(高齢農業団体)と連携して菊芋の栽培と商品開発に取り組む。
- 商品開発については、地元の公立大学生と地域おこし協力隊等から協力・助言を頂き、「ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物」など全9種類の新商品を開発、合同で新商品の発表会を開催。それぞれの直売所で試験的に販売開始。



（菊芋の講習会）

令和2年農山漁村振興交付金を活用し野菜加工施設を整備

今後の
展望

地域のつながり、業種の垣根を超えた交流・連携を通じて、地域活性化を目指す

- 今後、本格的に、商品販売や新たな商品開発に取り組み、高齢農業者・障害者だけでなく、地域の様々な個人、団体と連携・交流しながら、地域の活性化につなげていきたい。



（開発した新商品）



利用者の能力を引き出せる作業環境をつくり、高い工賃による賃金収入と障害者年金により障害者の生活自立を促し、一般事業所での就職チャレンジを支援。

基本情報

- 所在地：群馬県前橋市
- 団体名：社会福祉法人ゆずりは会
障害福祉サービス事業所菜の花
- 取組パターン：福祉完結型
- 主力商品：たまねぎ、えだまめ、ほうれんそう、ブロッコリー、キャベツ、長ねぎ、にんにく、米、育苗、ライスセンター運営、ビール麦



水稻の育苗



たまねぎ苗の出荷

取組の概要

- 約13haの農地で、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツなどを栽培。ライスセンター運営による乾燥調製作業を受託。
- 無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げている。
- 出荷規格に合わない野菜を地元の食品企業へ持ち込み、もったいない野菜によるぎょうざを外注製造。
- 障害者の農作業は、職員が障害者一人一人の特性を見極めて作業を配慮。
- 法人としては、地元農業協同組合の正組合員となり認定農業者として認定。
- クラフトビール・プロジェクトに参画し、ビール麦を生産、副産物利用として麦ストロープロジェクトに参画。



地元小学生との田植え



乗用機械でのほ場管理



枝豆の収穫作業



収穫した農産物の出荷

体制図

社会福祉法人ゆずりは会

就労継続支援B型事業所：菜の花、ゆずりは、エール

就労継続支援A型事業所：かたばみ

共同生活援助事業所：フォルテ

近隣農家

教育機関

民間企業

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(2014年)の約4haから約13ha(2020年)に拡大。
- 平均工賃(月)：約4万5千円(2020年)となり、群馬県内の中でもトップクラス。取組当初約2万7千円から約1.7倍に上昇。
- 乾燥受託：取組当初の13件から年々拡大し、64件(2020年)となり、約4.9倍に増加し、地域の基幹作物となる米の生産維持に寄与。
- 野菜苗の生産：たまねぎの苗は、県外福祉事業所に10万本以上販売。

所在地▶群馬県前橋市青梨子町379-1

連絡先▶TEL:027-226-6090 FAX:027-226-6126

E-mail:nanohana2014@rose.plala.or.jp

ウェブサイト▶<https://www.yuzurihakai.org/corporate/nanohana/index.html>

【取組のプロセス】

JAが共同乾燥施設内の乾燥機を譲渡

2014年～

きっかけ

利用者の工賃向上と活躍の場の拡大のため、農業路線を拡大。

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

2015年～

近隣農家との農福連携

- JAが運営していたライスセンターの廃止により、乾燥機を譲り受け、乾燥調製作業を受託。共同乾燥ではなく、農家毎に乾燥を実施。
- 米の苗生産、委託販売を開始。



ライスセンター作業

より一層の工賃向上を目指し、農業路線を拡大
一部、自然栽培にもチャレンジ開始

2016年～

企業社員との農業体験を通じた農福連携

- カシオ計算機（株）による一反パートナー制を開始。社員の農業体験。
- カシオ社員食堂で自然栽培米を提供「なのはな応援プロジェクト」。



稲刈りの応援

栽培面積10ha突破

2019年～

教育機関との農福連携

- 地元小学校の社会科体験授業として田植え、稲刈りの食農教育を実施。
- 地元保育所ともち米の田植え体験を実施。

法人として
認定農業者に認定

2020年～

他業種等との農福連携

- 京都西陣麦酒により農福連携クラフトビール「ふぞろいの麦たち」が完成。自然栽培によるビール麦栽培で参画。
- 地元食品企業による規格外野菜を用いた餃子の外注製造「ノウフクぎょうざ」が完成。



ほうれん草の出荷

農業売上目標
2,000万円を達成

農福連携で工賃向上が可能であることの全国モデルになることを目指して活動を前進

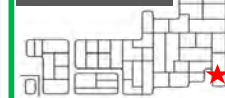
今後の
展望

高工賃と就労の実現に向けて

- 収益性の高い取り組みと、誰もが一般企業等へのチャレンジができる活動を継続。
- 地域農家からの信頼が、障害者の仕事ぶりにつながっており、今後も連携するパートナー達との輪を拡大。



地元小学生の稲刈り体験



荒廃農地を活用した高収益のブルーベリー（無農薬・無化学肥料）を栽培し、新たに障害者と高齢者の雇用機会を創出。観光農園として、首都圏住民の誘客が図られ地域活性化にも大きく貢献。6次産業化で高い工賃を実現。

基本情報

- 所在地：千葉県木更津市
- 団体名：特定非営利活動法人一粒舎
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：豊かなむらづくり農林水産大臣賞（2016年）木更津市観光ブルーベリー園協議会で団体表彰
- 主力商品・イベント：
キッチンカーによる出張販売、ブルーベリー、ブルーベリー加工商品（ジャム・クロワッサンサンド・スムージー・パフェ等）、無農薬野菜



ブルーベリー商品

取組の概要

- 障害者20名がブルーベリー栽培、加工、販売、観光農園スタッフとして仕事に従事。1.2haのブルーベリー園の管理のほか隣接する里山3haを保全管理。
- 作業機械の講習を行い、安全に機械操作ができる障害者が増加。機械操作が不得手な障害者には手作業中心の野菜作りなどの仕事を担当。職域を広げ観光農園の受付やレジに障害者を登用。
- ブルーベリー以外にも荒廃農地となった里山の竹や草を刈った後に桜や菜花を植栽。
- 2021年にブルーベリー園が有機JAS認定。
- 職員（10人）の平均年齢68歳。農業未経験者の第二の就職先として福祉と農業に高齢者ならではの知恵と力を発揮。



ブルーベリーの摘みとり



地域住民から依頼された草刈作業



再生された里山

体制図

特定非営利活動法人 一粒舎

就労継続支援B型事業所

ブルーベリー農園のらり・くらり

カフェ風の里

近隣農家

木更津市

木更津市観光ブルーベリー園協議会

道の駅うまぐたの里

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(2007年)の2,500㎡から12,000㎡（2020年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約4万5千円（2020年）となり、取組当初の1万8千円から約2.4倍に上昇。工賃は千葉県内に約400あるB型作業所の中で5指に入る。
- 障害者就労：取組当初の16人から20人（2020年）に就労拡大。
- 波及的な成果：地元小学校にもブルーベリーが植樹されるなど地域特産として児童の情操教育にも貢献。市内の全小学生対象に、毎年協議会の摘み取り案内のチラシを配布。

所在地 ▶ 〒292-0211 千葉県木更津市大稲54-1

連絡先 ▶ TEL：0438-53-8115 FAX：0438-53-8116 E-mail:bb_norarikurari@yahoo.co.jp
ウェブサイト ▶ <https://www.norarikurai.info/>

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

2007年～

木更津市に相談

2008年～

リタイアする農家
が急増

2010年～

2018年～

カフェ、道の駅による
販路開拓

今後の
展望

きっかけ

最低3万円の工賃を目標にして福祉事業所を開設したが景気低迷により
下請作業が減少。

梨園跡地でブルーベリーを植栽

- 下請けしていた従来の仕事がなくなり農業を検討。
- 遊休農地の活用を木更津市に相談し、「高収益」と「農薬を使わないブルーベリー」にひかれ取り組む。
梨園の跡地を借りて開墾し400本植栽。

近隣のリタイア農家から田畑賃貸が急増

- 農家の高齢化とともにリタイアする農家より農地を賃借。
- ブルーベリーが当初植栽した400本から1200本に増加。ブルーベリー園を拡大。
- NPO法人格を取得。2011年から就労継続支援B型事業所へ移行。
- 圏央道開通に伴い、キッチンカーを導入。

カフェ 風のさと開設、無農薬新鮮野菜商品の開発・販売

- 廃屋の納屋を改装しカフェを開設。観光農園、カフェのレジは障害者が担当し新たな雇用の場を創出。職員は異業種を定年退職した高齢者が第二の職場として活躍。
- 無農薬野菜とブルーベリージャムをクロワッサンサンドにして道の駅でも提供。
- キッチンカーを作り、様々なイベント会場に出張販売。ブルーベリーのスムージーやパフェを提供して、ブルーベリーの魅力を宣伝。

ブルーベリーがつくる新たな農福連携に挑戦

- ブルーベリー観光農園を柱として、里山の自然を生かした体験型イベントや花の里として新たな交流人口を創出。
- 2021年に有機JAS認定。さらに来園者・障害者雇用を増やすきっかけづくりとしたい。
- 農業+福祉+高齢者の仕組みを確立して、地域の活性化を図りたい。
- 利用者の月当たり平均工賃を5万円以上にしていく。



キッチンカーによる出張販売



イベント（感謝祭）



風のさと（カフェ）



利用者、職員全員集合写真



「農を通した働き場の場づくり」を目指し、農業という産業（ビジネス）の中で、障害者や福祉がプラスとなるユニバーサルデザインによる農業経営を展開。作業分解の視点により、作業のやり方、治具や機械化を工夫するとともに障害者の個性にあわせて農作業形態、農園で働くことができる仕組みを変更。特例子会社や福祉施設と連携、作業委託をすることで労働力を確保し、障害者や高齢者の雇用拡大に一助。

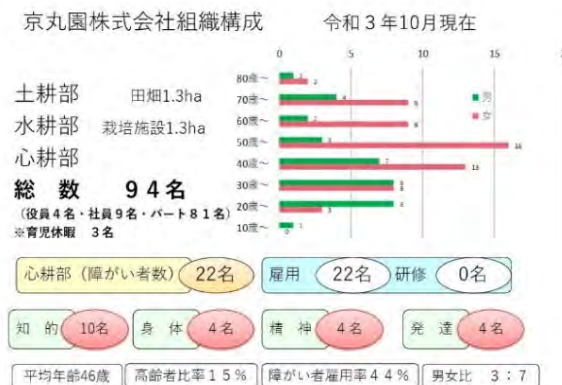
基本情報

- 所在地：静岡県浜松市
- 団体名：京丸園株式会社
- 取組パターン：連携型
- 選定表彰：全国優良認定農業者農林水産省経営局長賞2003年、第33回日本農業賞特別賞2004年、障害者関係功労者内閣総理大臣賞2007年、一般財団法人日本GAP協会GAP普及大賞2018年、令和元年度（第58回）農林水産祭天皇杯2019年他
- 主力商品・イベント：「姫ねぎ」、「姫みつば」、「姫ちんげん」他



取組の概要

- 経営規模拡大のため、求人を出したところ障害者が来られて、1週間の農業体験を受け入れたことがきっかけとなり、1996年より障害者自立支援センターと連携し、雇用及び研修受入を開始。
- 既存のパートが障害者のサポートを行うこととなり、手作業が多い農作業では作業効率が向上し、職場の雰囲気も好転した。
- 農作業及び出荷調製作業に携わる障害者24名を雇用。障害者は、所属従業員が県の障害者就業・生活支援センターにも登録している「心耕部」にも所属。最低賃金に満たない能力の場合は最低賃金の減額の特例許可を得るが、障害者のスキルアップをサポートし、能力に応じて給与を増加させる仕組みをとっている。



体制図

京丸園株式会社（総務・経理事務）、NPOしずおかユニバーサル園芸ネットワーク事務局

水耕部（姫ねぎ・姫みつば・姫ちんげん等の栽培・選別・仕分け・袋詰め）

土耕部（米栽培、さつまいも、ごぼう）

心耕部（水耕部・土耕部で障害者等の実習・研修）

連携団体

CTCひなり株式会社

多機能型事業
所だんだん

障害者就労支援セ
ンターふらっと等

取組の成果

- 福祉担当者と相談しながら、作業を分解し「伝わる」作業指示を行っている（「きれいに洗う」ではなく、「スポンジで5回洗う」）。
- 数量カウンター付トレー洗浄機を開発し、誰が行っても同じ精度の作業結果が得られる半自動の機械を導入。ユニバーサルデザインとすることで機械製作費が削減、作業の精度・効率があがることで、作業者の工賃向上に寄与。
- 障害者が行う作業をナビゲーションマップに落としこみ、作業内容を分解して作業を指示。作業をレベル別に分けたナビゲーションマップは、能力向上の指標としても活用され、連携する福祉事業所では訓練メニューとして活用。

所在地 ▶ 〒435-0022 静岡県浜松市南区鶴見町380-1

連絡先 ▶ TEL:053-425-4786 E-mail: kyomaru@ck.tnc.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://kyomaru.net>

【取組のプロセス】

1996年～

きっかけ

経営規模拡大を図るため、求人を出したところ障害者が来て、一週間の職場体験を実施

農を通した働き場のづくり：農業・福祉・企業連携モデル構築へ

- 障害者を受け入れたことにより、職場コミュニケーション、工程管理の考え方が生まれ雰囲気明るくなり、働きやすい職場に変化
- 職場に精神保健福祉士・第2号職場適応援助者を配置し、指導・スキルアップ

JGAPを取得

- 2015年に厚生労働省次世代育成支援認定「くるみん」取得
- 2016年に農業の未来をつくる女性活用経営体100選に認定
- 2017年しずおか農林水産認証取得

令和元年度農林水産祭で「多角化部門」天皇杯受賞

- 多様な人たちが活躍できる「ユニバーサル農業」を推進しており、従業員のうち約25%が障害者で年齢層も幅広
- 全国初となる量産芽ねぎの水耕栽培やミニちんげん菜の周年量産、みつばの小型化など、付加価値の高い独自のオリジナルブランド商品開発を行い、収益性を確保

2013年～

今後の展望

「笑顔創造」ユニバーサルデザインによる農業経営

- 農業と福祉を融合したユニバーサル農業を核とした健康創造産業を創出
- 多様な人たちの活躍の場面を農業で広めていくために研究・普及活動を行い農業・福祉・企業の連携ビジネスモデルを構築



ユニバーサルデザインの機械開発による作業の標準化

作業	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6
1 播種・草取り	汚れた箇所、一人作業	一定作業量可	虫トラップ可			
2 トレー・コンテナ洗い	汚れた箇所、一人作業	洗浄機使用可	質・量			
3 段ボール組み立て		作業手順	正確・量			
4 ちんげん菜定植		立作業	正確・量	苗の品質区別		
5 ちんげん菜収穫			刃物使用	正確・箱詰め	品質変化対応	目標収量
6 庵みつば下葉とり			正確作業	品質変化対応		目標量対応

ナビゲーションマップ



京丸園事例が絵本に



京丸園集合写真

農家の減少
地域活力の低下

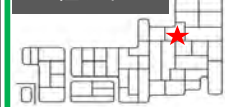
2004年 個人経営から
法人経営へ移行

2005年 浜松市ユニ
バーサル園芸研究会
が設置（事務局：浜
松市）

2006年 NPOしずお
かユニバーサル園芸
ネットワークが設立
（事務局：京丸園）

2010年 農業・福祉・企業連携により伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の特例子会社CTCひなり㈱に作業委託

2021年 特例子会社1社、福祉施設3施設と作業委託し農福連携



地域の高齢化による労働力不足の解決に向け、就労継続支援B型事業所「障がい者就労トレーニングファームチャレンジ立野」を運営し、佐渡市内の障がい者を受け入れ、農作業や地域のボランティア活動に取り組む他、古民家を改修したカフェ「アートサロン和（やわらぎ）」に障がい者が制作した絵画や工芸品の展示、農産物や加工品の販売も行っている。

基本情報

- 所在地：新潟県佐渡市
- 団体名：特定非営利活動法人
立野福祉会
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：
 - 平成26年 ぐっと賞（新潟NPO協会）
 - 平成30年 感謝状（立野集落）
 - 〃 ディスカバー農山漁村の宝
選定（北陸農政局）
- 主力商品・イベント：
 - 米（自然栽培）、採種かんらん（キャベツ）、米粉菓子（ビスコッティ）、あんぱ
 - 柿、佐渡番茶（焙じ茶）、花卉（アスター、寒菊）、黒豆（自然栽培）、とうもろこし

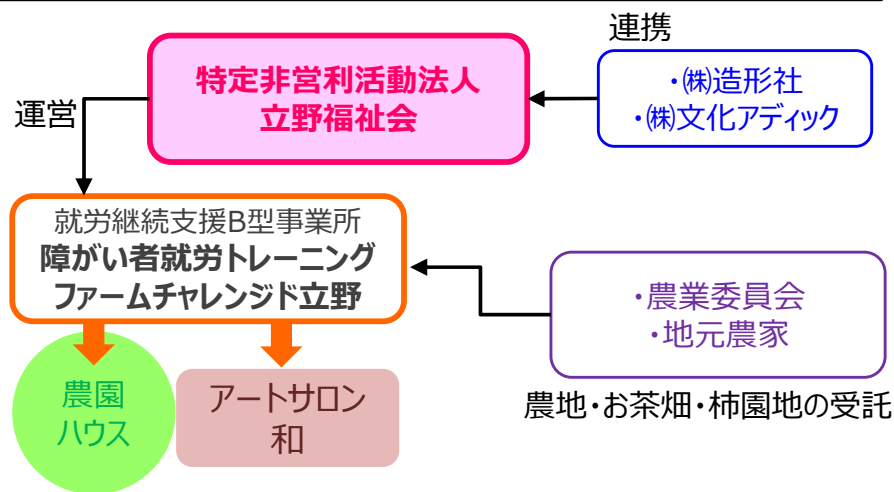
取組の概要

- 障がいの程度により、作業を切り出し、各人の適正に応じた工程を任せることで、効率化と障がい者のやりがいを創出している。
- 季節や天候に留意した作業内容や休憩時間等を取り入れることで、障がい者が働きやすい環境をつくり、就労人数の増加を図っている。
- かんらんやアサガオの採種、日本スイセンの球根栽培を取り入れ、工賃アップを図っている。



項目	単位	取組当初	H28年	H29年	H30年	R元年	R 2年
障害者数	人	5	15	20	22	23	27
荒廃農地解消	a	8	11	11	14	24	27
工賃総額	千円	1,637	1,899	3,024	3,885	5,164	5,810

体制図



取組の成果

- 障がい者の活躍により、耕作放棄地の解消と地域農業の維持が図られている。
- 受託作業に取り組む障がい者は、月5～6万円の収入が得られている。
- 6ヶ月以上の一般就労に繋がった方は、現在6名となっている。
- アートサロン和の開設により、地域との交流、さらに地域外からの来訪者も増加し、地域活性化に繋がっている。

所在地 ▶ 新潟県佐渡市立野333番地

連絡先 ▶ TEL:0259-67-7774 FAX : -

E-mail: challengedtateno@hitoxtoki.jp

ウェブサイト ▶ <https://tateno-fukusikai.amebaownd.com/>

【取組のプロセス】

2013年
4月～

きっかけ

働きたくても働く場がない障がい者と、担い手不足の農業をマッチングするため、小規模作業所を開設し、利用者5名、職員1名で農業を開始した。



2013年
7月～

NPO法人格を取得し、利用者を増員

- 「地域住民と一体で、農業を通して障がい者の自立と自律を支援し、地域活性化をする」ことを目的に、企業の協力のもと、加工部門は作業所で、販売は協力企業が行う形で事業スタート。
- 2014年4月、「地域活動支援センター」に改変し、利用者を7名とした。



2015年
4月～

就労継続支援B型事業所「障がい者就労トレーニングファーム チャレンジド立野」に改変。定員を10名に増員。

- 「チャレンジド＝挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人」という前向きな言葉を施設名として、農福連携を推進。
- 日本農福連携協会、自然栽培パーティ、JA佐渡自然栽培研究会に加入し、自然栽培取り組む。生産物を活用した加工品で製菓販売を行う。



2017年～

障がい者就労トレーニングファームチャレンジド立野の定員をさらに増加。

- 2017年6月、定員15名→2018年、定員20名に改変。
- 2018年、農山漁村振興交付金を活用し、地域の方や障がい者の拠り所であり、情報発信の場となる、アートサロン和と加工場を開設。

今後の
展望

「挑戦する」気持ちを大事にし、「お互いさま」の精神で地域とともに成長したい

- 更なる6次産業化を目指し、農産物加工施設の増設を検討する。
- 農福連携を推進するため、障がい者の働く環境を整備する。
- アートサロン和を通じ、農福連携の情報発信を行う。



島内企業の減少や縮小。集落の高齢化と農業の担い手不足。

法人の社員10名はすべて集落の方が担い、集落からの協力体制が整う。

農地受託で農業委員会に登録。認定農業者取得。

農家が一番必要とする短時間労働の受託や集落の困り事（古紙回収、除雪など）解消で集落の一員として存在感が増す。

集落の高齢化により春の用水路の掃除への参加人数は2018年よりチャレンジド立野の方が多くなる。